

## 1. 電子図書館実現への取り組みと沿革

奈良先端科学技術大学院大学は、平成3年10月に創立された新しい大学である。本学では、新たに図書館を構築するに当たり、学内で精力的に議論した結果、情報処理の目覚ましい技術革新の成果を取り入れた、電子図書館の構築を目指すこととなった。幸い、文部省の理解と支援を得て平成7年度に予算化が実現し、平成8年4月に正式に電子図書館（附属図書館）を開館する運びとなった。

本学では、各研究室の机上から自由に制約無く図書館を利用できるといった、利用者の立場に立った図書館を実現したいと考える教員が、自然発生的に集まり、平成4年に「曼陀羅図書館プロジェクト」を組織し、新しい図書館構築のための研究を開始した。

この研究成果は、今後のマルチメディアに関する技術的な進展を重視し、マルチメディア対応の実用電子図書館を目標とした計画案としてまとめられた。この計画案は、平成6年6月開催の評議会において承認され、全学的に実現に向けて取り組むこととなった。

予算化を見た平成7年4月には、欧米に電子図書館調査班を派遣し、海外の電子図書館プロジェクト等の、「技術的側面」、「法律的側面」、「経済的側面」、「ビジネス的側面」及び「社会的側面」に関する実地調査を行った。（参考資料4）

電子図書館を実現するには、特に技術的な課題として、画像・音声・文字を複合的に扱うマルチメディア技術、統合データベース技術、高速多重通信ネットワーク技術、図書資料の効率的電子化技術、使い勝手のよい検索、閲覧技術などの多様な技術の統合が必要となってくる。

本学は幸いにも、1ギガビット/秒のUltraNetworkを基幹とした高速な学内LAN（曼陀羅ネットワーク）が整備されている。さらに、全学情報環境システム整備の一環として、教職員・学生にはほぼ1人1台のネットワーク対応型ワークステーションが導入され、24時間、多様な情報処理・情報サービスが受けられる環境が実現している。本学は、既存の図書館のような、広い分野の図書資料を収集する必要性が余りなく、資料の電子化が比較的行きやすいといった特徴があり、さらに、これらの分野の内外の学会及び出版社は、一般的に電子出版に前向きである。

平成8年3月に電子図書館システムが稼働開始、同年4月に正式に利用者サービスを開始し、1年が経過したが、利用者に対する実効的なサービスの充実を逐次行いつつ運用している。

### <本学電子図書館の沿革>

- 平成3年10月 奈良先端科学技術大学院大学設置とともに、附属図書館設置
- 平成4年 4月 図書館専門委員会設置
- 平成5年 3月 情報科学研究科棟に図書室設置
- 4月 図書館専門委員会を、附属図書館運営委員会に改組  
電子化図書館のための著作権懇談会開催
- 平成6年 3月 バイオサイエンス研究科棟に図書室開設

- 4月 運用専門部会、システム構想専門部会を設置
- 9月 システム構想専門部会を、システム専門部会に改組、著作権専門部会を設置
- 平成7年 3月 電子図書館懇談会開催
- 4月 電子図書館海外調査（米国、欧州）実施
- 6月 デジタル図書館（DL）研究会発足  
先端図書館国際シンポジウム開催
- 11月 第1回附属図書館アドバイザー委員会開催
- 平成8年 2月 電子図書館竣工  
電子図書館システム導入（第Ⅰ期）
- 3月 電子図書館システム運用開始
- 4月 電子図書館開館
- 7月 第2回附属図書館アドバイザー委員会開催
- 12月 Second NAIST Symposium on Digital Libraries 開催  
電子図書館システム導入（第Ⅱ期）